

9月1日は中央中学校の開校記念日です

札幌の歴史とともに

1869年(明治2年)、『ここより縄張りをはじめよ』と開拓使判官 島義勇がステッキを立てて命じたのが大通西6丁目付近、中央中学校の校区でした。札幌の街並みはその地点を発祥の地として、それから150年ほどの歴史を刻んできました。

校下には時計台、道庁赤レンガをはじめとして、札幌の歴史を今に伝える建造物などが数多く残されています。

また、中央中学校一帯は、街の中心から方角としては「東北」の方向に当たることから、「東北地区」と呼ばれており、今でも「東北会館」、「東北町内会」という名称が残っています。中央中学校が建つこの地には、昭和43年3月まで、「東北小学校」という小学校があり、今も「記念碑」が建っています。

二つの学校を併せて

かつて札幌の中心部には「一条中学校」と「陵雲中学校」という二つの中学校がありました。都心部の人口の減少により、1967年(昭和42年)、この二つの中学校を統合し、東北小学校の跡地に新しい中学校を建設することが市議会で決定しました。13,000人の卒業生を出した一条中学校と7,400人の卒業生を出した陵雲中学校の卒業生には、学校名が消え、母校がなくなることへの複雑な思いがあったようです。

旧：一条中学校(南2条東6丁目)
旧：陵雲中学校(北2条西11丁目)
→ 中央中学校(北4条東3丁目)

旧：東北小学校(北4条東3丁目)
旧：東小学校(大通東6丁目)
→ 中央小学校(大通東6丁目)

札幌の「中央」として

新しく誕生する中学校を、北の都札幌にふさわしい気品と風格をもった中学校にしたいという思いが、一条、陵雲の生徒をはじめ、地域の人々や関係者の胸に強くありました。

学校名を決めるに当たり両校の関係者の意見や希望を聞きました。その結果、札幌の中心に位置することと、両校の伝統を引き継ぎ、新しい中学校がこれからも札幌の教育において、中心的な役割を果



たしてほしいという願いをこめて、「中央中学校」と名付けられました。

校章は、外形で東西南北に整然と交差している札幌市の街路を表し、その中心部に学校が位置していることを示しています。丸い台座は融和・協力の団結を表し、十字型は無限に発展する希望を表し、ペン先は学問を探究することを表しています。その校章は、今も皆さんの胸に輝いています。

こうして、1968年(昭和43年)9月1日(金)、「札幌市立中央中学校」が誕生し、同時に一条中学校と陵雲中学校の歴史が引き継がれました。

新たな歩み

中央中学校としての授業は1969年(昭和44年)4月7日に開始されました。2017年(平成29年)まで使われた校舎は当時、北海道でも有数の施設・設備を誇り、開校当時は29学級1,299名の生徒が在籍する大規模校でした。



【旧校舎の様子(2016年撮影)】

「生徒の明るく、素直で、伸び伸びとした態度」に深い感銘を受けた多くの方々が「中央中学校には教育がある」と言われたそうです。

中央中学校の先輩は、素晴らしい財産を今の私たちに残してしてくれています。先輩から後輩に引き継がれていく校風と伝統は、中央中学校の生徒や教職員の誇りでもあります。

「明るく たのしく 新しき」

気品と風格のある校歌がほしいという多くの人々の願いが叶い、1969年(昭和44年)3月、

中央中学校の校歌が誕生しました。歌詞は、札幌出身の詩人で作家でもある石森延男氏が、作曲は、桐朋学園大学音楽科教授の入野義朗氏が作っていただきました。

石森延男氏は、同年2月に次のような添え書きとともに歌詞を送ってくださり、手紙に「第一章は、北海道を象徴する大雪山と石狩川を掲げ、中学生らしい若さをたたえ、真理探究と正義の念を目指すことをうたいました。第二章は、北海道の豊富な果物を取りあげ、その美しさと瑞々しさになぞらえて、中学生の個性と素質の尊重、希望に燃える姿を表しました。第三章は、雄大な北海道の土地、愛すべき郷土、人間の信頼とかけがえのない大切な生命をうたいあげました。できるだけ、細かなことにこだわらない、しかもどっしりとした、堂々たる中学生の気風と温かく明るい友情を盛り込みたかったのです。」と書いてくださいました。

一 校 歌 一

第一章

山は大雪かがやきて 川は石狩かげさやか
真理と正義かざしつ つ われらひとみに力あり
明るくたのしく新しき 札幌中央中学校

第二章

みのる果物それぞれに 光り彩りかぐわしく
個性と素質のばしつ つ 望みはるかにおおらかに
明るくたのしく新しき 札幌中央中学校

第三章

雲とひろがるふるさとは きょうも未来をはばたけり
愛情努力助けあい 若き生命をうたわばや
明るくたのしく新しき 札幌中央中学校



【北師会館の敷地内
(北区あいの里3条3丁目3-1)
に建つ石森延男氏の文学碑】

「吾あり 人あり 学びあり」

平成13年、21世紀を迎えるに当たり本校は、開校からの学校教育目標「独立心と根性の育成」を「吾あり 人あり 学びあり」と改めました。新しい目標には、この学校で学ぶ生徒の皆さんが、一人の人間として自立することを目指し、人との交わりの中で自らを鍛え、自らを向上させるために学び続ける人になってほしい、という願いが込められています。

中央中学校が誇る「伝統の力」は、先輩から後輩へ、「心」が間違いなく受け継がれていることにあります。学年の壁を越えた交流や行事。優しく温かく後輩を指導する先輩。先輩を見習い尊敬する後輩。そして、その結晶としての「黄色いハンカチ」。校舎が改築され、先生方もいつか入れ替わり、生徒も3年間の生活を終え巣立っていきます。しかし、たくさんの方の手によって生まれ、受け継がれてきた「伝統」は、今も脈々と皆さんの中に生きています。

今年も9月1日に開校記念日を迎える私たちは、この「伝統」の中に、更に新しい息吹を吹き込みながら、今まで以上に素晴らしい学校を築いていこうではありませんか。私たちの中央中学校が、札幌の、そして北海道の「中央」として、その名にふさわしい、素晴らしい学校としていつまでも輝いていることを、私たちは心から願っています。多くの先輩たちがこの学校の生徒であったことを誇りにできるように、そして未来の後輩たちが、この学校で学べることを喜びにできるように、私たちの中央中学校を、仲間と手を取り合って大切に育てていきましょう。

新校舎

新校舎は旧校舎のグラウンド部に新築され、2017年(平成29年)8月10日(木)に竣工しました。新校舎は地上5階建てで、様々な施設・設備の実現に当たっては生徒と教職員の意見が取り入れられました。

2019年(令和元年)5月にはグラウンドが完成し、全ての工事を終えています。

